

一六 中書侍郎荀岳墓誌

立碑 晉 元康五年（二九五）もしくは永安元年（三〇四）
石高 五九糶。寬四一・六糶

隸書 碑陽 十七行。行二字 碑陰 一八行。行二字 左側 三行。行二字 右側 二行。行二字
原石 所在地不明

晉故中書侍郎穎川穎陰荀君之墓

君以元康五年七月乙丑朔八日丙申歲在乙卯疾病卒君樂平府君之第二子時年五十先祖世安措于穎川穎陰縣之北其年七月十二日大雨過常舊墓下濕5 崩壞者多聖詔嘉悼愍其貧約特賜墓田一頃錢十五萬以供葬事是以別安措於河南洛陽縣之東陪附晉文帝陵道之右其年十月戊午朔廿二日庚辰葬寫詔書如左

詔中書侍郎荀岳體量弘簡思識通濟不幸喪亡甚悼0 愍之其賜錢十萬以供喪事

詔故中書侍郎荀岳忠正簡誠秉心不苟早喪才志既愍惜之聞其家居貧約喪葬無資脩素至此又可嘉悼也舊墓遇水欲於此下權葬其賜葬地一頃錢十五萬以供葬事

5 皇帝聞中書侍郎荀岳卒遣謁者戴璿弔

皇帝遣謁者戴璿以少牢祭具祠故中書侍郎荀岳

尚饗

(右面)

隱司徒左西曹掾和夫卒

子男瓊年八字華孫

(碑陰)

岳字於伯小字異姓以正始七年正月八日癸未生於譙郡府丞官舍以咸寧二年七月本郡功曹史在職廿四日還家十月舉孝不行三年七月司徒辟四年二月十九日戊午應命署徐州田曹屬大康元年十二月舉秀才二年正月廿日被戊戌詔書除中郎三年八月廿七日庚戌詔書除太子舍人六年十月七日辛巳除尚書左中兵郎七年七月十七日丁卯疾病去職被壬申詔書除中郎十年五月十七日除屯騎始平王司馬十二月廿七日除中郎參平南將軍楚王軍事永熙0 元年九月除參鎮南將軍事永平元年二月三日除河內山陽令元康元年三月廿五日到官三年五月四日除領軍將軍長史六月六日拜四年五月五日除中書侍郎六月二日拜

夫人劉年卅五東萊劉仲雄之女息女柔字徽音年廿

5 適樂陵石庶祖次息男隱字鳴鶴年十九娶琅耶王士璋女次女和字韶音年十七適穎川許昌陳敬祖三日婦次女恭字惠音年十四適弘農楊士產拜時晚生二女皆不育

(左面)

夫人劉氏年五十四字簡訓永安元年歲在甲子三月十六日癸丑卒于司徒府乙卯殯其年多故四月十八日乙酉附葬



晉故中書侍郎顯川穎君之墓
 君諱平字子時八月廿五日申歲在卯疾疢
 卒於樂平府君之弟二月二十日大雨過墓下
 穎陰縣北與弟二月二十日大雨過墓下穎
 川穎陰縣北與弟二月二十日大雨過墓下穎
 多壞者至重嘉慶與弟二月二十日大雨過墓下
 蕙以葬事是別安措於河南洛陽縣之東隔附晉
 文帝陵之右與弟二月二十日大雨過墓下穎
 詔如左
 詔中書侍郎荀苦體量弘簡思識通洽不幸喪止甚悼
 愍之冥賜錢十萬以供喪事
 詔故中書侍郎荀苦忠立簡誠秉心不苟早與中書既
 總借之間冥居省約吏葬無滯素王此又可嘉碑
 也舊墓遷水於於此下權葬與昭葬地一頃錢十五萬
 以供葬事
 皇帝聞中書侍郎荀苦卒遣謂者戴瑞平
 尚饗
 皇帝遣謂者戴瑞平以少牢祭具祠故中書侍郎荀苦

隗司徒左西曹掾和夫卒
 子男瓊年八字華孫

晉故中書侍郎顯川穎君之墓
 君諱平字子時八月廿五日申歲在卯疾疢
 卒於樂平府君之弟二月二十日大雨過墓下
 穎陰縣北與弟二月二十日大雨過墓下穎
 川穎陰縣北與弟二月二十日大雨過墓下穎
 多壞者至重嘉慶與弟二月二十日大雨過墓下
 蕙以葬事是別安措於河南洛陽縣之東隔附晉
 文帝陵之右與弟二月二十日大雨過墓下穎
 詔如左
 詔中書侍郎荀苦體量弘簡思識通洽不幸喪止甚悼
 愍之冥賜錢十萬以供喪事
 詔故中書侍郎荀苦忠立簡誠秉心不苟早與中書既
 總借之間冥居省約吏葬無滯素王此又可嘉碑
 也舊墓遷水於於此下權葬與昭葬地一頃錢十五萬
 以供葬事
 皇帝聞中書侍郎荀苦卒遣謂者戴瑞平
 尚饗
 皇帝遣謂者戴瑞平以少牢祭具祠故中書侍郎荀苦

一六 中書侍郎荀岳墓誌

隸書で碑陽十七、碑陰十八行、左側三行、右側二行、行ごとに二二字。高五九センチメートル、寛四一・六センチメートル。一九一七年、河南省偃師縣汶莊郷の人が井戸より發見（方若、王壯弘増補『増補校碑隨筆』）、或いは偃師縣の西十五里の蔡小莊より出土し、鮑君某が入手（吳士鑑『九鐘精舍金石文跋尾乙編』）。原石は個人の所藏に歸しているらしく、所在不明（歐陽輔『集古求真續編』）。碑陽によれば刻石は元康五年（二九五）、左面によれば永安元年（三〇四）となる。范壽銘『循園古冢遺文跋尾』は、元康五年に碑陽と碑陰が雕られた後、永安元年、夫人劉氏が附葬された時に左右が増刻されたとし、馬衡『凡將齋金石叢稿』（中華書局、一九七七年）は、前後して雕られた文字が同様であるのは、ともに息子の隱の手になるため、とする。また福原啓郎氏は、「墓誌が元康五年に制作され、永安元年に刻み加えられたのか、あるいは永安元年に始めて制作されたのか、よくわからない」とする（同氏「西晉の墓誌の意義」、礪波護編『中國中世の文物』）。なお、歐陽輔は本碑を偽作と斷ずる（『集古求真』『集古求真續編』）。

晉故中書侍郎穎川穎陰荀君之墓^①。君。以元康五年七月乙丑朔八日丙申^②。歲在乙卯。疾病卒。君。樂平府君之第二子^③。時年五十。先祖世安措于穎川穎陰縣之北^④。其年七月十二日大雨過常^⑤。舊墓下濕。崩壞者多。聖詔嘉悼^⑥。愍其貧約^⑦。特賜墓田一頃。錢十五萬^⑧。以供葬事。是以別安措於河南洛陽縣之東。陪附晉文帝陵道之右^⑨。其年十月戊午朔廿二日庚辰葬^⑩。寫詔書如左。

詔^⑪。中書侍郎荀岳。體量弘簡^⑫。思識通濟^⑬。不幸喪亡^⑭。甚悼愍之。其賜錢十萬。以供喪事。詔。故中書侍郎荀岳。忠正簡誠^⑮。秉心不苟^⑯。早喪才志。既愍惜之。聞其家居貧約。喪葬無資。脩素至此。又可嘉悼也。舊墓遇水。欲於此下權葬^⑰。其賜葬地一頃。錢十五萬。以供葬事。皇帝聞中書侍郎荀岳卒。遣謁者戴瑱弔。皇帝遣謁者戴瑒。以少牢祭具祠故中書侍郎荀岳。尚饗。

(碑陰)

岳。字於伯。小字異姓。以正始七年正月八日癸未。生於譙郡府丞官舍。以咸寧二年七月。本郡功曹史。在職廿四日。還家。十月舉孝。不行。三年七月。司徒府辟。四年二月十九日戊午。應命。署部徐州田曹屬。太康元年十二月。舉秀才。二年正月廿日。被戊戌詔書。除中郎。三年八月廿七日庚戌。詔書。除大子舍人。六年十月七日辛巳。除尚書左中兵郎。七年七月十七日丁卯。疾病去職。被壬申詔書。除中郎。十年五月十七日。除屯騎始平王司馬。十二月廿七日。除中郎。參平南將軍楚王軍事。永熙元年九月。除參鎮南將軍事。永平元年二月三日。除河內山陽令。元康元年三月廿五日。到官。三年五月四日。除領軍將軍長史。六月六日拜。四年五月五日。除中書侍郎。六月二日拜。

夫人劉。年卅五。東萊劉仲雄之女。息女柔。字徽音。年廿。適樂陵石庶祖。次息男隱。字鳴鶴。年十九娶琅耶王士璋女。次女和。字韶音。年十七。適潁川許昌陳敬祖。三日婦。次女恭。字惠音。年十四。適弘農楊士產。拜時。晚生二女。皆不育。

(右面)

隱。司徒左西曹掾。和。夫卒。子男瓊。年八。字華孫。

(左面)

夫人劉氏。年五十四。字簡訓。永安元年歲在甲子三月十六日癸丑。卒于司徒府。乙卯殯。其年多故。四月十八日乙酉附葬。

(1) 晉故中書侍郎潁川穎陰荀君之墓

中書侍郎 〓 『世說新語』 排調注引 『荀氏家傳』 〓 「隱祖昕。樂安太守。父岳。中書郎。羅振玉『雪堂金石文字跋尾』 〓 「傳稱岳官中書郎。據誌是中書侍郎。傳又脫侍字也」。

(2) 以元康五年七月乙丑朔八日丙申

乙丑朔。趙萬里『漢魏南北朝墓誌集釋』：「乙丑。當作己丑。」

(3) 樂平府君之第二子

樂平府君。先引『荀氏家傳』では樂安太守（『九鐘精舍金石文跋尾乙編』：『晉書地理志。樂平郡屬并州。泰始中置。樂安國屬青州。王國當稱內史。不應稱太守也』）の所。『雪堂金石文字跋尾』：「樂平府君。殆即家傳之所。傳作樂安。殆樂平之訛也。『九鐘精舍金石文跋尾乙編』：「家傳作樂安。乃爲樂平之誤。是當以碑爲正。『魏志』荀攸傳。攸叔父衢。裴注引『荀氏家傳』曰。衢子祈。字伯旗。位至濟陰太守。疑祈與祈即一人。因字形相近而誤。或曾歷濟陰。樂平兩郡。而碑與傳各舉其一耳。」

(4) 先祖世安措于潁川潁陰縣之北

安措。『孝經』喪親章：「卜其宅兆而安措之。」『晉大司農關中侯裴祇墓誌』（『漢魏南北朝墓誌彙編』）：「元康三年七月四日癸卯葬。十月十一日乙卯安措。」『晉賈皇后乳母美人徐氏之銘』（同前）：「（元康）九年二月五日。祖載安措。永即窆竇。」

(5) 大雨過常

大雨。『晉書』卷四「惠帝紀」に、「（元康五年）是歲。荆。揚。兗。豫。青。徐等六州大水。詔遣御史巡行振貸」、同卷二十七「五行志」上に、「五年五月。潁川。淮南大水。六月。城陽。東莞大水。殺人。荆。揚。徐。兗。豫五州又水」という。

(6) 聖詔嘉悼

嘉悼。cf. 顏延之「陽給事誄」（『文選』卷五十七）：「皇上嘉悼。思存寵異。」

(7) 愍其貧約

貧約。『左傳』昭公十年：「國之貧約孤寡者。私與之粟。」

(8) 賜墓田一頃 錢十五萬

墓田一頃。福原論文は西晉の例として、『晉書』卷三十四「羊祜傳」：「賜去城十里外近陵葬地一頃」、同卷四十「賈充傳」：「給塋田一頃」、同卷五十七「滕脩傳」：「賜墓田一頃」を挙げる。他に『晉書』卷九十一「良吏傳・魯芝」：「泰始九年卒。……賜塋田百畝」、卷八十九「忠義傳・嵇紹」：「賜墓田一頃。客十戶」がある。
 錢十五萬。墓田一頃に加えて、錢を賜った例として、『晉書』卷三十九「王沈傳」：「泰始二年薨。帝素服舉哀、賜秘器朝服一具。衣一襲。錢三十萬。布百匹。葬田一頃、謚曰元」がある。『九鐘精舍金石文跋尾乙編』：「西晉飾終之典。如王祥。鄭冲。何曾。石苞。羊祜。裴秀。王沈。鄭袤。盧欽。庾峻。皆賜錢三十萬。唐彬。劉頌。皆賜錢二十萬。惟荀勗則賜錢五十萬。山濤賜錢五十萬。將葬又賜錢四十萬。荀顛。李胤則賜錢二百萬。開國諸臣隆殺有等。荀岳位僅中書侍郎。而喪葬共賜錢二十五萬。亦云優厚矣。」

(9) 陪附晉文帝陵道之右

陪附。『後漢書』列傳四十四「楊震傳附・楊秉」：「（延熹）八年薨。時年七十四。賜塋陪陵」、『晉書』卷三十四「羊祜傳」：「從弟琇等述祜素志。求葬於先人墓次。帝不許。賜去城十里外近陵地一頃」
 晉文帝陵。崇陽陵を指す。傅亮「爲宋公至洛陽謁五陵表」注引郭緣生「述征記」（『文選』三十八）：「北邙東則乾脯山。山西南晉文帝崇陽陵。陵西武帝峻陽陵……」。

(10) 其年十月戊午朔廿二日庚辰葬

廿二日庚辰。『漢魏南北朝墓誌集釋』：「廿二。當作廿三。」

(11) 詔

詔。『九鐘精舍金石文跋尾乙編』：「載詔書一。一為賜錢十萬以供喪事。一為賜葬地一區錢十五萬以供葬事。」

(12) 體量弘簡

體量。『三國志』卷二十六「滿寵傳」注引「晉諸公贊」：「舊。體量通雅。有寵風也。同卷四十七「吳主傳」注引「吳書」：「熙對曰。吳王體量聰明。善於任使……。」

弘簡。『羊祜「讓開府表」』(『文選』三十七)：「光祿大夫李胤。莅政弘簡。在公正色」。注：「孔安國『尚書』傳曰。簡。大也。」

(13) 思識通濟

思識。『三國志』卷二十九「方技傳·管輅」注引「輅別傳」：「安平趙孔曜。明敏有思識。」

通濟。『三國志』卷四十一「楊洪傳」注引「益部耆舊傳雜記」：「(何)祇字君肅。少寒貧。為人寬厚通濟。」『晉書』卷六十八「賀循傳」：「前蒸陽令郭訥。風度簡曠。器識朗拔。通濟敏悟。才足幹事。」

(14) 忠正簡誠

簡誠。『禮記』王制：「司寇……有旨無簡不聽」。注：「簡。誠也。」

(15) 秉心不苟

秉心。『詩』邶風「定之方中」：「匪直也人。秉心塞淵。騷牝三千。」

(16) 欲於此下權葬

權葬。cf.『後漢書』列傳十四「馬援傳」：「……帝益怒。援妻孥惶懼。不敢以喪還舊塋。裁買城西數畝地槨葬而已」。注：「槨。草也。以不歸舊塋。時權葬。故稱槨」。校勘記：「時權」二字當乙轉。『華芳墓誌』(『漢魏南北朝墓誌彙編』)：「今歲荒民饑。未得南還。輒權假葬于燕國」。『謝鯤墓誌』(同前)：「假葬建康縣石子岡」。

(17) 以少牢祭具祠

少牢。『大戴禮』曾子天圓：「諸侯之祭牲。牛。曰太牢。大夫之祭牲。羊。曰少牢。士之祭牲。特豕。曰饋食」。『晉書』八十九「忠義傳·嵇紹」：「帝乃遣使册贈侍中。光祿大夫。加金章紫綬。進爵爲侯。賜墓田一頃。客十戶。祀以少牢。……以紹死節事重。而贈禮未副勳德。更表贈太尉。祠以太牢。同「忠義傳·虞惲」：「及王敦平。贈惲襄陽太守。望祭陽太守。遺謁者至墓。祭以少牢」。cf.『唐令拾遺』復舊喪葬令第五條：「諸京官職事三品已上。散官二品已上。遭祖父母父母喪。京官四品及都督刺史。並內外職事若散官以理去官五品已上。在京薨卒。及五品之官身死王事者。將葬皆祭以少牢。司儀率齋郎。執俎豆以往……。」

(18) 生於譙郡丞官舍

『凡將齋公垂石叢稿』：「岳生於譙郡府丞官舍。知昕必曾歷此官。『循園古冢遺文跋尾』：「荀岳生於譙郡府舍。而劉夫人卒於司徒府。足見當時官吏媿屬得以隨任同居。惟荀隱僅官司徒西曹掾。而竟能迎養其母。居司徒府中。則當時體恤臣僚。較近世尤爲優厚矣」。

- (19) 本郡功曹史
郡功曹史。『晉書』卷二十四「職官志」：「郡皆置太守。河南郡京師所在。則曰尹。諸王國以內史掌太守之任。又置主簿。主記室。門下賊曹。議生。門下史。記室史。錄事史。書佐。循行。幹。小史。五官掾。功曹史。功曹書佐。循行小史。五官掾等員。」
- (20) 司徒府辟
司徒。『凡將齋金石叢稿』：「是時何曾以太傅領司徒。」
- (21) 署部徐州田曹屬
田曹屬。『九鐘精舍金石文跋尾乙編』：「晉書職官志。州置刺史及諸曹從事等員。田曹屬。殆即諸曹之一。志文從略。吳氏はこれを州の屬官と解するが、司徒の辟に應じて署せられているので、恐らく公府の屬官であり、故に部の字が徐州の上につくのであろう。『宋書』卷三十九「百官志」上：「楊駿爲太傅。增祭酒爲四人。掾。屬爲二十人。兵曹分爲左。右。法。金。田。集。水。戎。車。馬十曹。皆置屬。則爲二十人。但し楊駿が太傅となるのは惠帝太熙元年（二九〇）で、岳がこの官についた咸寧四年（二七八）より後である。部徐州田曹屬の官名は類例を他に見ないが、或いは司徒府の田曹の中で特に徐州のことを扱った職ではなからうか。」
- (22) 除中郎
中郎。『宋書』卷三十九「百官志」上：「光祿勳。一人。……凡有中郎。議郎。侍郎。郎中四等。無員。多至萬人。」
- (23) 三年八月廿七日庚戌
庚戌。『漢魏南北朝墓誌集釋』：「庚戌。當作庚子。」
- (24) 除大(太)子舍人
太子舍人。『晉書』卷二十四「職官志」：「太子太傅。少傅。皆古官也。……舍人十六人。職比散騎。中書等侍郎。」
- (25) 六年十月七日辛巳
辛巳。『漢魏南北朝墓誌集釋』：「辛巳。當作辛卯。」
- (26) 除尙書左中兵郎
尙書左中兵郎。『宋書』卷三十九「百官志」上：「晉西朝則直事。殿中。祠部。儀曹。吏部。三公。比部。金部。倉部。度支。都官。二千石。左民。右民。虞曹。屯田。起部。水部。左主客。右主客。駕部。車部。庫部。左中兵。右中兵。左外兵。右外兵。別兵。都兵。騎兵。左士。右士。北主客。南主客爲三十四曹郎。」
- (27) 除屯騎始平王司馬
除屯騎。……司馬。『九鐘精舍金石文跋尾乙編』：「始平王瑋爲武帝第五子。封於咸寧三年。至太康十年十一月改封楚王。碑言十年十二月參平南將軍楚王軍事。其時正在改封楚王之後。本傳云。徙封於楚。都督荊州諸軍事。平南將軍。轉鎮南將軍。武帝崩。入爲衛將軍領北軍中候……」。『凡將齋金石叢稿』：「太康十年歷始平王司馬。參楚王軍事。參鎮南將軍。蓋皆仕楚王瑋也。瑋。初封始平王。歷屯騎校尉。太康十年十一月徙封於楚。出爲平南將軍。轉鎮南將軍。悉與志合。」
- (28) 參平南將軍楚王軍事

注(27) 参照。

(29) 除參鎮南將軍事

注(27) 参照。

(30) 永平元年二月三日除河内山陽令

除河内山陽令 同年同月二十日、楚王瑋は賈后の計略により入朝、三月八日の楊駿討滅のクーデターに參與し、以後、衛將軍領北軍中候として、同年六月に殺されるまで中央に留まる。岳の山陽令轉出はそれと關係してのことかも知れない。

(31) 除領軍將軍長史

領軍將軍 〓『九鐘精舍金石文跋尾乙編』二職官志云。中領軍將軍。魏官。魏武帝以曹休爲中領軍。文帝始置領軍將軍。晉武帝初省。使中軍將軍羊祜統二衛前後左右驍衛等營。卽領軍之任。永昌元年改曰北軍中候。楚王以衛將軍領北軍中候。卽領軍也。事在惠帝初年。非元帝永昌元年始改。武帝紀。泰始七年十二月罷中領軍并北軍中候。是武帝時已有北軍中候。而以中領軍并入之。荀岳爲楚王長史。碑卽稱爲領事。蓋岳兩參軍事。一爲司馬。一爲長史。皆爲楚王屬官。すなわち吳氏は晉の武帝期に中領軍將軍が北軍中候に併入されたとし、この領軍將軍とは楚王瑋の領した北軍中候のことだとする。但し西晉時代に領軍將軍はあったようである。また當時、既に楚王瑋は誅殺されており、吳氏がこの領軍將軍を彼のこととするのは誤りであろう。

(32) 東萊劉仲雄之女

劉仲雄 〓『九鐘精舍金石文跋尾乙編』二東萊劉仲雄。卽劉毅。晉書本傳云。東萊掖人。子暉妻前卒。先陪陵葬。此足證西晉有陪陵之例。』雪堂金

石文字跋尾 〓『晉書劉毅傳。字仲雄。東萊掖人。誌舉其字也。』

(33) 適樂陵石庶祖

石庶祖 〓『雪堂金石文字跋尾』二誌又稱。息女柔適石庶祖。男隱娶王士璋女。次女和適陳敬祖。次女恭適楊士產。石。王。陳。楊。亦並舉其字。王士璋。見晉書王祥傳後。弟覽傳。覽子瑛。字士璋。石庶祖。陳敬祖。楊士產。雖不可考。然石爲樂陵人。當是石鑑之族。陳。潁川人。楊。弘農之人。當爲太邱。伯起之裔。所與通婚姻者。固皆海內之清族矣。』

(34) 三日婦

三日婦 〓『通典』卷五十九「嘉禮」四「已拜時而後各有周喪迎婦遣女議」二「東晉廢帝太和中。……謝奉與鄧賤曰。……夫拜時之禮。誠非舊典。蓋由季代多難。男女宜各及時。故爲此制。以固婚姻之義也。……謝安議。拜時雖非正典。代所共行久矣。將以三族多虞。歲有吉忌。故逆成其禮。宋庾蔚之謂。俗既流弊。故以拜時代三日。推其始意。當是貪得從省。以赴吉歲。』同「拜時婦三日婦輕重議」二「按禮經婚嫁無拜時三日之文。自後漢魏晉以來。或爲拜時之婦。或爲三日之婚。魏王肅。鍾育。育子會。陳羣。羣子泰。咸以拜時得比於三日。晉武帝謂山濤曰。拜於舅姑。可准廟見。三日同牢。允稱在塗。濤曰。愚論已拜舅姑。重於三日。所舉者但不三月耳。張華謂。拜時之婦。盡恭於舅姑。三日之婚。成吉於夫氏。准於古義。可爲成婦。已拜舅姑。卽是廟見。常侍江應元等謂。已拜舅姑。其義全於在塗。……三日之婦。亦務時之婚矣。雖同牢而食。同衾而寢。此曲室枉席之情義耳。豈合古人亡則奠菜。存則盥饋而婦道成哉。且未廟見之婦。死則反葬女氏之黨。以此推之。貴其成婦。不係成妻。明拜舅姑爲重。接夫爲輕。所以然者。先配而後祖。陳鍼子曰。是不爲夫婦。誣其祖矣。非禮也。此春秋之明義。拜時重於三日之徵也。議曰。……拜時之婦。禮經不載。』

自東漢魏晉及於東晉。咸有此事。按其儀。或時屬艱虞。歲遇良吉。急於嫁娶。權爲此制。以紗縠幪女氏之首。而夫氏發之。因拜舅姑。便成婦道。六禮盡捨。合昏復乖。墮政教之大方。成容易之弊法。……宋齊以後。斯制遂息。後之君子。無愧前賢。すなわち三日婦、拜時、ともに後漢魏晉に行われた略式の婚禮である。

(35) 適弘農楊士產

弘農楊士產『凡將齋金石叢稿』は産を彦に釋し、『世說新語』注(賞譽注引『八王故事』・品藻注引荀綽『冀州記』)に見える弘農の人・楊士彦ではないかとする。

(36) 拜時

注(34) 參照。

(37) 隱

荀隱Ⅱ荀隱の名は、『晉書』卷五十四「陸雲傳」に雲との清談相手として見える。『世說新語』排調注引『荀氏家傳』……隱。歷太子舍人廷尉。『雪堂金石文字跋尾』……傳稱。隱歷官太子舍人。廷尉平。誌稱。隱司徒左西曹掾。與傳作太子舍人廷尉平者不合。不知誰爲最後之歷官也。『九鐘精舍金石文跋尾乙編』……碑云。隱官司徒左西曹掾。而家傳云。歷太子舍人。廷尉平。蓋先官舍人。廷尉平。而終於西曹掾耳。

(38) 司徒左西曹掾

司徒左西曹掾Ⅱ『晉書』卷二十四「職官志」……諸公及開府位從公者、……置長史一人秩一千石。西東閣祭酒。西東曹掾……。

(39) 和夫卒

和夫卒Ⅱ和は夫が死んで實家に戻っていたようである。『凡將齋金石叢稿』……女和適陳敬祖。而曰三日婦。其義未詳。劉氏附葬時。陳已先卒。故曰有和夫卒之文。三日婦については注(34)を參照。

(40) 子男瓊

子男瓊Ⅱ『雪堂金石文字跋尾』……隱名後一行書。子男瓊年八字華孫。當是隱之子。不曰岳之孫。而附書於隱後曰子男。此古今文法之殊矣。吳士鑑・劉承幹も瓊を隱の子とするが(『晉書』註)陸雲傳、或いは瓊は和の子(碑陰の記録の一年後、十八歳で瓊を出産)かもしれない。

(41) 卒于司徒府

卒于司徒府Ⅱ注(18) 參照。『凡將齋金石叢稿』……夫人劉氏之卒。隱正爲司徒左西曹掾。故志稱卒於司徒府(時王戎爲司徒)。

(42) 其年多故

其年多故Ⅱ『凡將齋金石叢稿』……時晉亂已作。張方以先一年陷京師。是年又大掠洛中。故曰其年多故。

(碑陽)

晉の故中書侍郎、潁川潁陰荀君の墓。君、元康五年七月乙丑朔八日丙申、歳は乙卯に在るを以て、病を疾みて卒す。君、樂平府君の第二子なり、時に年五十。先祖は世よ潁川潁陰縣の北に安措さるも、其の年七月十二日、大いに雨ふること常を過ぎ、舊墓下濕にして、崩壞せる者多し。聖詔嘉悼

し、其の貧約なるを愍れみ、特に墓田一頃・錢十五萬を賜い、以て葬事に供せしむ。是を以て別に河南洛陽縣の東に安措し、晉文帝陵道の右に陪附す。其の年十月戊午朔廿二日庚辰、葬る。詔書を寫すこと左の如し。

詔す。中書侍郎荀岳、體量弘簡にして、思識通濟なるも、不幸にして喪亡せり、甚だ之を悼愍す。其れ錢十萬を賜い、以て喪事に供せしめよ。詔す。故中書侍郎荀岳、忠正簡誠にして、秉心^{かりそ}苟めにせざるも、早に才志を喪えり、既にして之を愍惜せるに、聞くならく其の家居貧約にして喪葬に資無しと、脩素此に至るは、又た嘉悼す可きなり。舊墓水に遇えば、此の下に權葬せんと欲す。其れ葬地一頃・錢十五萬を賜い、以て葬事に供せしめよ。皇帝聞くならく中書侍郎荀岳卒せりと、謁者戴璿を遣わして弔せしむ。皇帝謁者戴璿を遣わし、少牢祭具を以て故中書侍郎荀岳を祠らしむ。尙わくは饗けんことを。

(碑陰)

岳、字は於伯、小字は異姓。正始七年正月八日癸未を以て、譙郡府丞の官舎に生まる。咸寧二年七月を以て、本郡の功曹史たり。職に在ること廿四日にして、家に還る。十月孝に擧げらるも、行かず。三年七月、司徒府辟す。四年二月十九日戊午、命に應じ、部徐州田曹屬に署せらる。太康元年十二月、秀才に擧げらる。二年正月廿日、戊戌の詔書を被り、中郎に除せらる。三年八月廿七日庚戌、詔書もて、大子舍人に除せらる。六年十月七日辛巳、尙書左中兵郎に除せらる。七年七月十七日丁卯、病を疾みて職を去る。壬申の詔書を被り、中郎に除せらる。十年五月十七日、屯騎始平王司馬に除せらる。十二月廿七日、中郎・參平南將軍楚王軍事に除せらる。永熙元年九月、參鎮南將軍軍事に除せらる。永平元年二月三日、河内山陽令に除せられ、元康元年三月廿五日、官に到る。三年五月四日、領軍將軍長史に除せられ、六月六日拜す。四年五月五日、中書侍郎に除せられ、六月二日拜す。

夫人の劉、年卅五、東萊の劉仲雄の女なり。息女の柔、字は徽音、年廿、樂陵の石庶祖に適ぐ。次息男の隱、字は鳴鶴、年十九、琅耶の王士璋の女を娶る。次女の和、字は韶音、年十七、潁川許昌の陳敬祖に適ぐ。三日婦。次女の恭、字は惠音、年十四、弘農の楊士產に適ぐ。拜時。晚く生まる。二女は皆育たず。

(右面)

隱は、司徒左西曹掾たり。和は、夫卒せり。子男の瓊、年八、字は華孫。

(左面)

夫人劉氏、年五十四、字は簡訓、永安元年、歳は甲子に在り、三月十六日癸丑、司徒府に卒す。乙卯殯す。其の年、故多ければ、四月十八日乙酉附葬す。